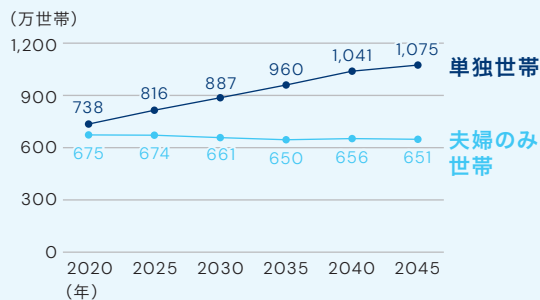


誰もが生前・死後の尊厳を保つための持続可能な身じまい・意思決定とその支援

幸せな「人生のしまい方」って？ ～あなたはタツトリ？ノトナレ？～

65歳以上の世帯数推計



出典 「日本の世帯数の将来推計(全国推計) 令和6(2024)年推計 | 国立社会保障・人口問題研究所」よりSMBC京大スタジオ作成
<https://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2024/t-page.asp>

課題・背景

これまでの日本社会では、高齢者の「身じまい」を、身近な家族が支えることが一般的でした。しかし近年、家族がいない、いても遠くに住んでいる、家族自身も高齢化しているといった理由で、高齢者が生前・死後に家族の支援を受けられない場合が増えています。

人生を全うするまでには様々な出来事に対応しなければなりませんが、すべてのことを自己決定するのは負担が大き一方で、すべての決定を任せられる人を見つけることも容易ではありません。人と人とのつながり、地域のつながりが希薄になる中で、今後の意思決定のあり方が問われています。

取り組むアプローチ

学際的な研究により社会課題の全容を捉えること、そして誰もが「人生のしまい方」を自分事として考えるきっかけを提供することを目指します。「幸せな人生のしまい方」とは、自分自身の介護や医療、財産、相続、葬送などの「身じまい」に関して、自分らしく満足のいくあり方を実現することです。

本プロジェクトでは、「人生のしまい方」をめぐる考え方や行動には『**タツトリ**(=「立つ鳥跡を濁さず」の傾向を持つ人)』と『**ノトナレ**(=「後は野となれ山となれ」の傾向を持つ人)』の2つのタイプの人がいると考えています。タツトリ、ノトナレ、それぞれの人が幸せな「人生のしまい方」をするためにはどういった制度やサービスが必要なのかを研究、提言していきます。



プロジェクト代表



死について考えたり準備することは、先送りしてしまいがちです。しかし、そのときに備えて、あらかじめ意思決定して行動に移しておくことも大切なことです。個人や家族に任せきりにするのではなく、地域社会や企業も含めて、この問題に取り組んでいくことが重要だと考えています。プロジェクトを通して、人生で起こる様々なイベントに対する意思決定のあり方について、皆さんと考えを深めたいと思っています。

児玉 聡 京都大学大学院文学研究科 教授



私は、誰もが「いい塩梅」で意思決定をしながら、それなりに幸せな最期を迎えられたらいいなと思っています。そのためのポイントは、言語化です。医療についての意向や普段の生活を送るうえでの希望など、「どうしたいですか?」と聞いてすぐに答えられる方は多くありません。考えるきっかけとして、話すというプロセスはとても大事です。いろいろな立場の方と対話しながら、高齢期の意思決定支援に関して、社会としての「いい塩梅」をみんなでつけていきたいと思っています。

沢村 香苗 日本総合研究所 創発戦略センター シニアスペシャリスト

プロジェクト
ページ

